

平成30年度 第1回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

と き：平成30年5月16日（水）午後3時00分から4時45分まで

ところ：小平市役所6階 大会議室A

1 出席者等

子ども・子育て審議会委員・・・・・・・・13人（欠席3人）

傍聴者・・・・・・・・0人

2 配付資料

子ども・子育て支援法（平成24年8月22日法律第65号）（抄）参照条文

小平市子ども・子育て審議会条例

小平市子ども・子育て審議会の会議の公開に関する規則

小平市子ども・子育て審議会委員名簿

学童クラブの現状について

保育事業の現状について

3 内容

議事

- （1）小平市子ども・子育て審議会の審議内容等について
- （2）学童クラブの現状について
- （3）保育事業の現状について
- （4）その他

4 上記内容についての意見・質疑応答

- （1）小平市子ども・子育て審議会の審議内容等について

特になし

- （2）学童クラブの現状について

委員 学童クラブの整備予定について、第五小学童クラブ第二・第三、花小金井小学童クラブが増築校舎内に整備とあるが、運営形態はどのようなになるか。

事務局 増築される校舎内に学童クラブを設置する。第五小学校は校庭の西側に増築される3階建て校舎の1階部分を学童クラブとして使用する。建築確認申請上、1階は児童福祉施設、2階3階は学校施設となり、複合施設となる。花小金井小学童クラブも同様に、増築校舎の1階北側が学童クラブ、1階南側・2階は

学校施設である。複合施設としての運営になるが、それぞれが独立した運営となり入口も別に設けている。

市議会6月定例会で新設について運営形態も含めて審議していただくことになるが、新たに学童クラブを新設する場合は、以前からある直営と指定管理者による運営とを保護者が選択できるよう、二つの運営体制をとっている。現段階では指定管理者での運営を考えている。

委員 十二小学校と上宿小学校は近距離に立地している。十二小学童クラブの登録児童数が定員の倍以上である一方で、上宿小学童クラブ第一・第二は定員割れしている。今後十二小地区は児童数も増えると思われるが、学童間で定員割れしている分の受け入れなどで調整はできないか。

事務局 小平市の特色として、学童クラブを学校内に設置している。学童クラブの運営は安全面を第一に考慮して学校の敷地内で完結させている。定員を超えている十二小学童クラブについては部屋をさらに一部屋借りて2クラス化させた運営をしている。

委員 学区域の変更は、出来ないのか。

事務局 学区域については、教育委員会が設定している。子どもたちが増えているというだけでは、教育委員会も難しいという見解である。

委員 市内全校で学童クラブは学校の敷地内にあるというのは、他の区市町村と比較すると少なく、他の区市町村での学童クラブの運営は学校の敷地外の形態が一般的であり、学校内で完結することで、様々な弊害になっているのではないか。地域にある施設という資源の有効活用を考慮すると学区は関係なく、子ども・保護者の意向を取り入れた運営はできないか。

事務局 市の学童クラブの運営について、学校の敷地内に設置している点に対して、多くの保護者から安心だという声をいただいている。また近年は、放課後デイサービスや民間団体のサービスなど放課後の過ごし方について選択肢が多くなっており、そういった点も踏まえて今後の学童運営を検討していくところである。

委員 3年生になると利用頻度が減ると聞いたが、登録児童数と実際の利用児童数はどうなっているか。

- 事務局 全市的な現状として、児童登録数に対して約7割ほどの児童が出席している。以前と比較し学年が上がっても保護者の勤務状況などにより学童の利用率は増えたように捉えている。
- 委員 増設は定員増への対応が目的であると思うが、今年度の予定されているクラブの増設は予算との乖離がないか。
- 事務局 上宿小学童クラブは過去2年の申込数の増加傾向を前提とし増設に至ったが、今年度については2施設合わせて47名の登録となった。前年度と比較し申込定員に余裕ができたため、4月の時点では申込みが殺到しなかったのではないかとということが考えられる。例年申込にはばらつきがあり今後の推移も踏まえて検討していきたい。
- 事務局 次期計画に向けて、1つ課題となっているのが、現状3年生までの受け入れとされているが、法律上の本来の形とされている6年生までの受け入れについてである。定員数に余裕がある施設については高学年までの受け入れを検討していかなければならないと考えている。
- 委員 空きがあるというのは、学区間を超えた運営も検討しているのか。
- 事務局 課題となっているのは、小学4～6年生も本来対象とすべき点であり、現在空きがあるところも高学年の受け入れを考えると有効なスペースになる。
- 委員 高学年の受け入れは、定員割れしているところから順に始めるのか。
- 事務局 その手法についても審議会で審議していただき、検討していきたい。
- 委員 定員を超過している施設について、増加割合に比例したスペース確保と人員配置を行えているか。
- 事務局 例として八小学童クラブは、2クラス化して運営している。定員を大幅に超えたクラブについては学校から部屋を新たに借りて保育をしている。クラブ定員が40名の場合は、2名の職員を配置しており、2クラス化しているクラブについてはそれぞれのクラスに2名ずつ合計として4名配置している。
- 会長 国の基準として1クラス40名であり、前提としてそれを超えた運営はしてい

ない。定員変更まではしていないものの、2クラス化しているクラブは実際80名定員での運営をしており、その点では配布資料との数字と実態は少し異なっている。

事務局 実際の定員と受け入れ人数とは乖離がある。基本的に国の基準に沿った運営をしている。児童数の増加見込みや学校の運営状況に応じて対応しており、今後の経過を踏まえて条例上定員を定め、新設等検討している。子どもの安全を第一に考えて運営している。

委 員 待機児解消を目的とした受け入れによって保育施設などは顕著に施設環境が悪化している。3年後を目標とする計画ではなく、今利用している児童の安全性や快適性を考慮した学童クラブの運営をしていただきたい。

事務局 学校施設内で運営していることから、校庭や体育館など学校施設を有効に活用して運営を行っている。委員からいただいたご意見に留意しながら十分に安全を図っていきたい。

委 員 校庭開放の時間帯は、学童の児童は校庭で遊べないと聞いたことがあるが、どうか。

事務局 学校によっては校庭を利用する際、校庭開放を利用する児童と区別できるようビブスを付けるなどして工夫しながら一緒に利用している。

会 長 学童クラブの現状改善あるいは次期計画について、貴重な意見を委員からいただいた。メリットはメリットとし、さまざまなニーズに対してはデメリットになる部分もあるが、そういった面を今後どう考えていくか、今後の定員等の推移をどのように見ていくかも重要である。

(3) 保育事業の現状について

委 員 待機児童数は地域によってばらつきがあるが、市全体としての実状はどうか。

事務局 事業計画では0歳は計画をクリア、3歳～5歳についても計画数値をクリアしている。1歳～2歳は計画数値を満たしていない。特に市内西地区と中央地区では0歳を中心に認可保育園と認可外保育施設において空きがある。0歳に待機児童が生じる要因の一つに保護者が自宅と距離が近い特定の施設のみ入園希望するような状況もあるのではないかと。また認可外保育施設は認可保育園と比

較して敬遠されているのではないか。認可外保育施設利用促進のため昨年から認証保育施設と認定家庭福祉員等のPRをしている。

委 員 数字だけでは現状を把握しづらい。現状を読み取れるような数字はあるか。

事務局 市全体の待機児童数と施設の空き数の比較だけでは地域の状況はつかみづらい。保護者の様々な意向もあり地域ごとの待機児童の数字が出ている。空きがない東地区については、新たな整備を検討する必要がある。

委 員 児童一人当たりにかかる年齢別経費の中で、公立保育園と私立保育園とでは一人当たりにかかる経費が違うが、具体的に何に経費をかけているのか。

事務局 公立保育園の方が比較的ベテランの職員が多いため、人件費の部分で差が出ていると思われる。

委 員 保育園の人員不足を感じる。人件費の高い公立保育園は今後減らしていくのか。

事務局 公立保育園と私立保育園も同じ職員配置の基準に基づいており体制に大きな差はない。将来的な児童数減少や施設の老朽化といった状況もあるが、公立保育園は公立保育園の良さを生かし、保育の量だけではなく保育の質を小平市全体で確保し向上を目指していく中で中心的な存在であるべきではないかと考えている。現状では「公立保育園の運営のあり方」があるが、今後、公立保育園の方向性を整理して示し、ご意見を頂戴したいと考えている。

委 員 鈴木保育園が閉園する前に、すずのき台保育園で合同保育に行かれていた職員はまだ在籍しているのか。

事務局 3ヶ月実施した合同保育を開始する際、移行に先行して社会福祉法人で保育士4名を雇用したが、その後退職者もあったため、引き継ぎを行い児童の現状をしっかりと把握しながら、保育の体制を維持し施設運営をしている。

委 員 公立保育園の良さについて、自分の一人目の子が一時保育で私立保育園を4施設経験し、2歳の春から公立保育園を緊急一時保育で1か月利用した。その後秋から継続して保育園に通うようになった。合わせて6施設経験して小平市の公立保育園は工夫を凝らしながら外遊びやお散歩をしてくれる点が良かった。今後公立から私立へ移行する際もそういった良い教育方針も引き継いでほしい

と思う。

委 員 小川西保育園と私立すずのき台保育園の建設総経費が3倍程度差があるが、公立保育園は特別な設備や規模等があるのか。また保育事業内容について、保育サービスの向上とあるが具体的な取り組みがあれば教えていただきたい。

事務局 小川西保育園は施設の建て替えをしており、その際、建設費の他に①仮設園舎の設置費用②設置した土地の借り上げ金③給食の委託④備品等、事業にかかった全ての数字を表記している。一方、すずのき台保育園は建設費に対して小平市が補助金として支出した額で表示している。全ての建設費ではないため、差が付いている。保育サービスの質の向上への取り組みについては、研修や栄養士の連絡会、合同園長会を通して公立保育園の良さを共有していくなどして質の向上に努めたい。

委 員 待機児童数に対して、保護者が保育園の利用を自宅からの距離を考慮して希望しているのではということだが、送迎は徒歩か自転車という決まりがあるか。群馬県の施設で保護者がドライブスルーで児童を送迎できる事例を聞いたことがある。雨天時など自動車での送迎が可能になれば、距離による制限は改善できるのではないか。

事務局 保育園の認可を受けるにあたり、保護者が利用できる駐車場を設けなければならないという規定はない。施設毎に条件をうまく活用しているというのが現状。駐車場がある園については近隣住民との関係性が重要であり、駐車場の少ない園、あるいは駐車場の無い園では、送迎について極力徒歩あるいは自転車を利用していただきたいとお話をされていると認識している。

委 員 以前調べたところ、駐車場を持つ公立保育園については地域住民から理解をいただき、注意喚起や声掛けを促し工夫して対応していた。

委 員 1～2歳の待機児は多いが 市内中央地区および西側地区に0歳1歳の空きが多い。現状に対して施設を増やすとその後に定員割れが起きて保育園同士で競合が起こる可能性があり、定員割れ施設の経営悪化といった状況が考えられる。他の自治体が実施している保育ステーション方式を小平市も導入してはどうか。

事務局 小平市は東西に長細く展開された地域であり、待機児童の分布にも地域性の違いがある。そういったご提案を意識しながら今後研究していきたい。

- 委 員 花小金井地区の開発に伴う他市からの流入はどのように考えているか
- 事務局 花小金井地区のマンションの販売の状況や人口がどのように変動していくか、それがどういったかたちで保育園の申込みにどれだけ反映されるかというところを研究している。4月頃に分譲が開始されどのくらいの期間を経て埋まっていくかというのが今後の保育ニーズや待機児童数に違いとして表れてくるのではないかということで動向を注視している。
- 委 員 2年前から、医師会では国とともに子どものかかりつけ医制度を推進しているが、医師が24時間体制で相談を受けるなどの内容であったため、申し込んだ医師は全体の0.2%ほどと聞いた。
- 会 長 花小金井地区について自治体の境界エリア等では、広域調整として他市との連携連動、また保護者にも選択できるものとして、周辺自治体の動向を把握しながら広域のエリアでの待機児童対策を行っていくことも、小平市も視野に入れていくことは無駄ではないだろう。
- 「(3) 保育事業について」以上でご了解いただけたものとする。

(4) その他

- 事務局 大沼保育園の給食調理員がノロウイルスに感染したため、東京都と小平保健所の協議の結果、児童の安心安全を第一に考え、給食を停止した。経過として5月1日と2日の検査で各2名計4名の給食調理員に陽性反応が出ており、5月7日、11日に再検査を実施しているが現時点でも3名が引き続き陽性という状況である。この期間、児童には大規模な感染性胃腸炎の流行は認められていない。給食の代替えについては0歳児及び土曜日については備蓄食等で対応している。平日1歳～5歳の児童は業者からの仕出し弁当による対応を継続して行っている。今後給食調理員の健康状態を確認しながら5月24日の給食再開を目指している。園では給食室内の塩素消毒及び糞便、嘔吐物のマニュアルに基づく処理を徹底しているほか、保護者に対してはメールによる経過報告を行うとともに、17日夜に保護者説明会の開催を予定している。
- 委 員 感染経路は。
- 事務局 現在発生経路は捉えられていない。児童や調理員に対しても断続的におう吐や下痢の症状が出ていた者もあり、特定はできていない。4月に下痢・おう吐の

症状のみられる児童がいたと報告は受けているが断定はできない。

会 長 引き続き、子どもの安全と保護者に対しも丁寧な対応をお願いする。